

平成20年度第1回トリアージ作業部会次第

1 日時

平成20年7月28日（月）10時～12時

2 場所

三番町共用会議所 第1会議室

1 開 会

2 あいさつ

消防庁審議官 石井信芳

3 委員紹介

4 座長選出

5 会議の公開について

6 報告事項

平成19年度救急業務高度化推進検討会報告書
（トリアージに関する作業部会報告書）

7 議 題

（1）平成20年度トリアージ作業部会検討項目について

ア トリアージの導入に向けた制度設計について

イ トリアージに関する法的問題について

ウ トリアージプロトコルの精度向上のための実証研究について

（2）その他

8 その他

救急業務高度化推進検討会
トリアージ作業部会 構成員

(五十音順・敬称略)

小 野 清 (仙台市消防局 救急課長)

○坂 本 哲 也 (帝京大学医学部 救命救急センター教授)

鈴 川 正 之 (自治医科大学 教授)

関 政 彦 (東京消防庁 参事・救急部救急管理課長)

谷 川 攻 一 (広島大学大学院 救命救急医学教授)

畑 中 綾 子 (東京大学公共政策大学院 特任研究員)

林 久 人 (横浜市安全管理局 司令課担当課長)

吉 田 広 治 (川口市消防本部 次長兼警防課長)

米 村 滋 人 (東北大学大学院 法学研究科准教授)

オブザーバー

久保田 勝 明 (消防庁消防研究センター 主任研究官)

【配付資料】

平成１９年度救急業務高度化推進検討会報告書（総務省消防庁）

【添付資料】

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 資料１ | 平成２０年度第１回救急業務高度化推進検討会議事要旨（トリアージ部分抜粋） |
| 資料２ | 平成２０年度トリアージ作業部会検討項目 |
| 資料３ | 政令指定都市消防本部の救急件数・搬送人員・救急隊数等（平成１８年中） |
| 資料４ | 海外の救急 |
| 資料５ | トリアージの導入に向けた制度設計について |
| 資料６ | 緊急重症度別救急体制 |
| 資料７ | トリアージに関する法的問題について |
| 資料８ | トリアージプロトコルの精度向上のための実証研究について |

平成 20 年度第 1 回救急業務高度化推進検討会議事要旨
(トリアージ部分抜粋)

日時：平成 20 年 5 月 23 日（金）13 時 30 分～

場所：三番町共用会議所大会議室

- 1 過去、トリアージを検討してきた経緯から、119 番通報時の通報内容からある程度の重症度・緊急度の判断は可能であること。
- 2 トリアージとは単に順番をつけることが目的ではなく、重症度・緊急度が高い傷病者にどのような対応が出来るかを考察するべきものであること。
- 3 逆に重症度・緊急度が低い人に対してはどのようなサービスを提供できるかを具体的な計画を立てておく必要がある。
 - ・ トリアージの結果、重症度・緊急度が低いということで「低」の人を切るのならば、その後のフォローアップ対策を具体的な対応策として検討すべき。
 - ・ 搬送を希望する重症度・緊急度が低い傷病者をコール段階で断るのはリスクが大きいため、救急相談センター（東京消防庁実施）的なフォローアップ体制が必要ではないか。
- 4 緊急度・重症度が低いということで線引きをして切ることが妥当であるかについて議論をすべきである。
- 5 東京都で実施した調査では自分では重軽症の判断が出来ない、どこの医療機関に行っても良いか分からないという人がいる。このような要請者を相談窓口に戻すことが出来れば適正な救急車の利用につながり、国民のニーズに合致したサービスが可能であり、今回の作業部会のテーマと考える。
- 6 軽症例に関する相談では、膨大な医学的知識と教育が必要になるが、重症例を見つけることも同様に一定の教育が必要であることから、トリアージを行うには指令員への教育も検証の中で実施していくことになる。
- 7 消防が行うサービスの中で 119 番通報が入電し内容を聴取して救急医療相談で対応と判断したときに、消防の業務として相談業務が入ってくれば仕事の大きな変革となる。このようなニーズがどの程度あるか否かを調査する必要がある。
- 8 トリアージは時間的な制約のある患者に対していかに制限時間内に医療機関に搬送するかということになる。

平成 20 年度トリアージ作業部会検討項目

- 1 トリアージの導入に向けた制度設計及びトリアージ導入時における救急隊の配置・編成
- 2 トリアージに関する法的問題
- 3 トリアージプロトコルの精度向上のための実証研究

資料 3

政令指定都市の救急件数・搬送人員・救急隊数等(平成18年中)

番号	消防本部名	現場到着 平均所要 時間	出場件数	搬送人員	救急隊数	1隊あたり
1	札幌市	5.9	75,893	68,923	30	2,530
2	仙台市	6.7	38,787	35,003	22	1,763
3	さいたま市	6.2	50,807	46,085	26	1,954
4	東京消防庁	7.3	686,801	626,543	227	3,026
5	千葉市	5.8	45,977	42,045	25	1,839
6	横浜市	6.0	155,317	142,262	62	2,505
7	川崎市	6.6	58,862	52,868	23	2,559
8	新潟市	6.2	27,311	25,228	25	1,092
9	名古屋市	6.5	100,610	88,879	35	2,875
10	静岡市	7.7	25,138	24,063	15	1,676
11	浜松市	6.7	30,116	28,707	21	1,434
12	京都市	5.2	73,055	66,814	26	2,810
13	大阪市	6.0	205,036	179,675	55	3,728
14	堺市高石市	6.1	46,074	43,476	18	2,560
15	神戸市	5.2	66,099	57,208	31	2,132
16	広島市	5.6	48,911	44,525	38	1,287
17	福岡市	6.0	57,662	50,339	25	2,306
18	北九州市	5.2	46,795	43,083	20	2,340
小 計(平均)		6.2	1,839,251	1,665,726	724	2,540
全 国 合 計(平均)		6.6	5,237,716	4,892,593	4,846	1,081

海 外 の 救 急

・ アメリカ（ニューヨーク）

・ フランス（サンドニ県）

・ ドイツ（ミュンヘン）

・ イギリス（ロンドン）

アメリカ（ニューヨーク）

フランス（サンドニ県）

ドイツ（ミュンヘン）

イギリス（ロンドン）

トリアージの導入に向けた制度設計について

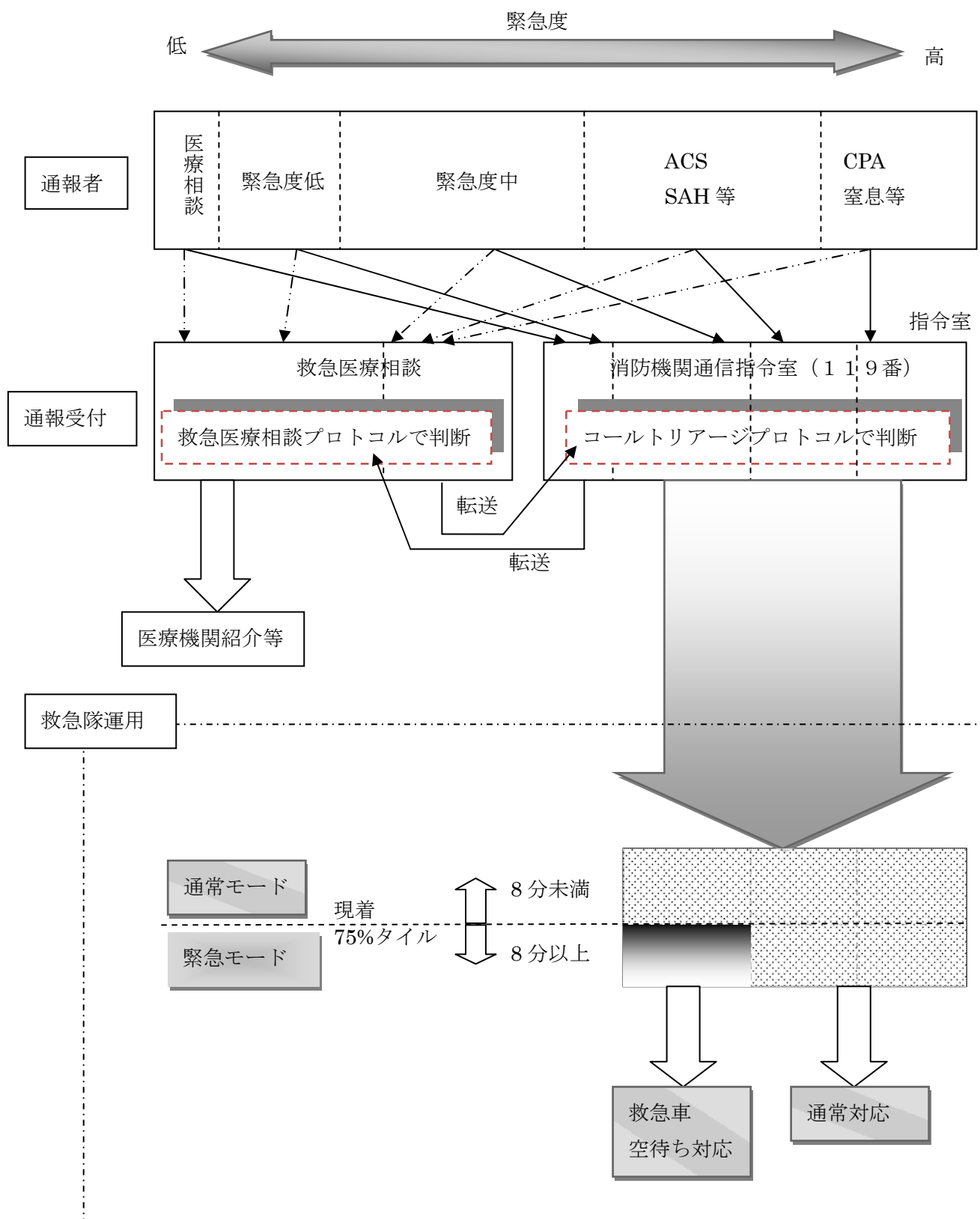
検討事項

- ・ 緊急度・重症度「高」「中」「低」傷病者への対応を検討する。
- ・ 緊急度・重症度「中」「低」に対して、グレード・現場到着時間をどのように設定するか。
- ・ 救急相談センター等の設置に関わる検討（フォローアップ対策として）

検討内容

緊急度・重症度 内容	高	中	低
検討内容	・ 救急車で出場する。（必要に応じてP A連携を行う） ・ ドクターカー等を要請する。	・ 直ちに救急車を出場させることが不可能であれば、消防隊を出場させる必要性の有無。 ・ 消防隊の出場が必要であれば、現場でどのような対応を図る必要があるか。 ・ 「中」分類を細分化して対応を検討する必要性の有無 ・ 観察の結果、救急車が必要と判断した場合の対応。 ・ 時間設定し、遅れて救急車を出場させることの説明	・ 明らかに緊急度・重症度「低」と選定できる場合どのような対応を講じるか。 ① 消防隊の出場の必要性の有無 ② 時間設定し遅れて救急車を出場させる必要性の有無。

緊急度重症度別救急体制



仙台市

救急車 5 隊 待機中



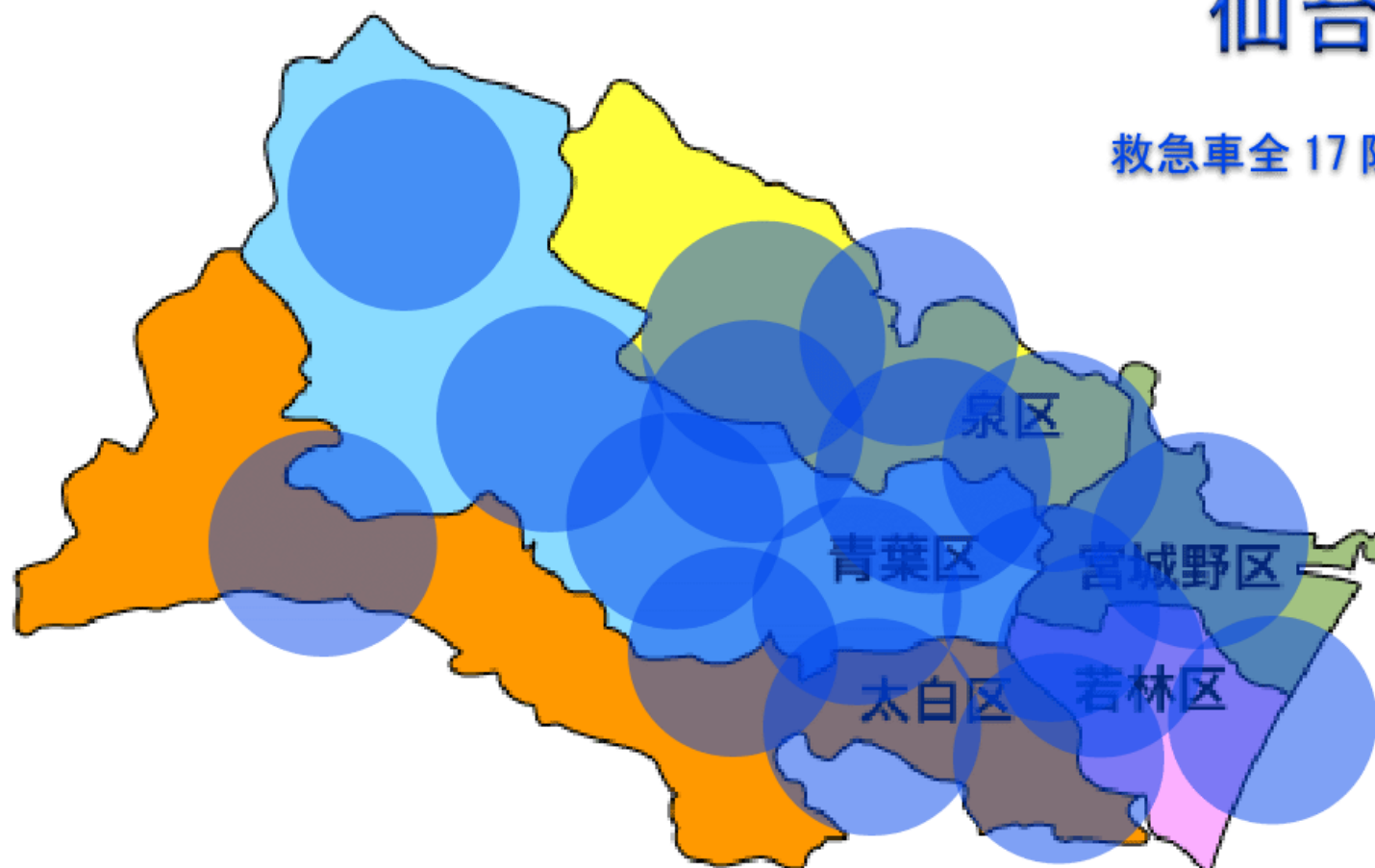
仙台市

救急車 10 隊 待機中



仙台市

救急車全 17 隊 待機中



トリアージに関する法的問題について

- 1 昨年度は、トリアージに伴う法的問題、プロトコルの策定、運用上の問題点について整理を行った。
- 2 今年度は、トリアージを各消防本部で運用するにあたり、法的な手当の必要性及びその内容について検討を行う。

トリアージプロトコルの精度向上のための実証研究について

- 本年度は、平成 19 年度救急業務高度化推進検討会トリアージに関する報告書に基づき、内因性コールドプロトコル及び今年度改訂する外因性コールドプロトコルに基づき協力消防本部において検証を行う。
- 検証を行うにあたり指令員に事前教育を実施する。
- コールドトリアージプロトコル検証の結果分析を行い、修正する必要が発生した場合に修正を行い、作業部会を通じて検討会に報告をする。
- 併せて、オンピーク時における救急隊の配置・編成を組み込む。